



## 愛川ふれあいの村10月の風景

# 平成27年10月 自然のたより

昼間と夜の温度差が大きくなり、モミジの紅葉とイチョウの黄葉が日に日に色濃くなってきました。木の実も熟し始め、地面に落ちたカキを鳥や昆虫が食べにやってきました。

また、冬に向け脱皮した形跡や子孫を残すための種子を蒔く姿が見られ、自然の神秘さを感じます。



褐葉(かつよう)したトチノキ



紅葉したイロハモミジ



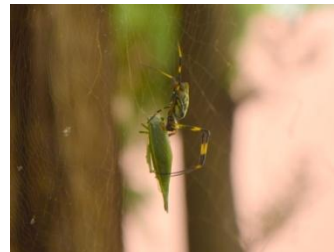
黄葉(おうよう)したイチョウ



サンシュユの実



蜜を吸うキリハとテグチョウ



アマツツを食すゾウグモ



青空とカキの実



キアラカムシとマミの実



ミコシグサ



実を付けたスタジイ



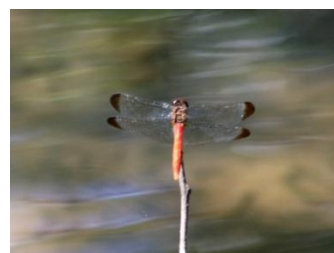
アカシゲマダラの脱皮



赤くなったカラスウリ



ノコンギク



コノシメトンボ



巣箱を使うスズメ

## ◆外来種が及ぼす影響◆

### ニホンリスとタイワンリス

- 日本に何種類のリスがいるか知っていますか？  
ニホンリス・エゾシマリス・シマリス・タイワンリス…など、たくさんの種類のリスがいます。
- その中で、昔から日本にいますと考えられているのが、名の通り「ニホンリス」です。
- ニホンリスは体が茶色でお腹が白色をしています。鎌倉や横須賀などで良く見られる灰色のリスは「タイワンリス」で、アジア全域に広く生息していることから、貨物の輸入時に日本へ入ってきてしまった「外来種」です。
- さてニホンリスは、神奈川県では準絶滅危惧種に指定されています。現在、湘南や鎌倉方面でタイワンリスが増えすぎて、ニホンリスや他の動物の生息地域が脅かされたり、エサが少なくなったり、ムササビの巣を奪われたり、鳥の卵が食べられてしまったりなど、たくさんの悪影響が出ます。
- このようなことが続くと、生き延びていくことや、種の存続、さらには生態系のバランスが変化し、日本の森自体が激変してしまいます。森が変化すると観察できる動物はもちろん、植物なども変わってきます。
- タイワンリスが今より増殖しないよう、むやみにエサを与えたり、食べ物の袋をポイ捨てしたりしないようにすることがニホンリスや他の動物を守ることにになります。
- 1人1人が危機意識を持ち、正しい飼い方や育て方を  
知ることから始めましょう。



タイワンリス



ニホンリス

## ▼ヤモリって実は…▼

ヤモリは夏に活動する生き物ですが、10月でも見ることができました。本来であれば、この時期は物陰や軒下などの暖かいところにおいて、越冬準備をしているのですが…。

さて、ヤモリは漢字で表記すると『家守』と書きます。なぜ、この漢字なのかというと、【家にいる蛾や蚊、ゴキブリなどの害虫を食べて、家を守る】ということから「家守(ヤモリ)」となりました。家の中で見つけるとびっくりしてしまいがちですが、害虫を駆除してくれるので、とても良い働きをしてくれます。

人はヤモリだけでなく様々な動植物とつながってお互いが支えあって生きています。まずは『自然界とのつながり』を知ることから始めてみませんか？知ることから、自然界との上手な付き合い方を考え、実践に移してみましょう。そうしたら、殺虫剤もたくさん使わず、環境にもいい暮らしができるのではないのでしょうか。



## ★旬のお知らせ：11月★

10月から11月にかけて「カリン」が旬を迎えています。カリンに含まれている薬用成分のアミグダバリンが咳止めや痰、喘息に効果があるとされています。また、カリンに含まれているポリフェノールの一種がインフルエンザウィルスを抑制する強い効果があるという研究結果も出ています。これからの季節、カリンを上手に摂取して、風邪に負けないようにしたいですね。



## ◎11月の

### 注目ポイント◎

秋も深まり、村内の紅葉・黄葉が見頃になってきました。

山々が赤や黄色に染まると「モミジ狩り」や「イチヨウ狩り」といった、言葉を良く聞くようになります。

なぜ、「狩猟」の「狩」を使用するのでしょか。

実は、「狩」という字は、獲物を捕えるという意味や潮干狩り・山菜狩りなどといった採集行為のことを指す他に、花や紅葉(黄葉)を見て楽しむという意味も持っています。このことから、「狩」という字が使われているのです。

ちなみに、紅葉にも3つの種類があり、葉が赤く染まる紅葉、葉が黄色に染まる黄葉、そして葉が茶色に染まる褐葉(かつよう)があります。その年の気候や生育条件によって変わりますが、鮮やかな赤や黄色だけでなく、少し茶色がかかった色の葉も山々を彩る一色なのです。

これからだんだん寒くなり、昼と夜の寒暖差がもっと大きくなること、もっと葉は色付いていくことでしょう。

モミジ狩りやイチヨウ狩りに出掛けられる際は、防寒対策をお忘れなく。



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★